Japan Geoscience Union Meeting 2015
(May 24th - 28th at Makuhari, Chiba, Japan)
©2015. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

U07-10 会場:103 時間:5 月 28 日 12:00-12:15

最近の雪氷災害と日本雪氷学会の取り組み
Summary of the snow and ice disaster and effort of The Japanese Society of Snow and Ice

上石 勲 [1*] ; 河島 克久 [2]
KAMIISI, Isao[1*] ; KAWASHIMA, Katsuhisa[2]

[1] 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター, [2] 新潟大学災害・復興科学研究所
[1]Snow and Ice Research Center, National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention, [2]Research Institute for Natural Hazards and Disaster Recovery, Niigata University

平成 18 年豪雪以降，最近は頻繁に大雪が出現し，2010/11 年から 2012/13 年冬期まで 3 冬連続で大雪となり，交通関係も含めると毎年平均 160 名の雪による死者が出ている。2014 年 2 月 14 日から 16 日にかけては，南岸低気圧によって西日本から北日本にかけて大雪となり，特に関東甲信を中心に死者 26 人，負傷者 1000 人以上，約 1,700 億円の農業被害，数千か所の建物被害，150 万戸の停電，130 地区以上の長期孤立など人的・物的・社会的に大きな被害が出た。日本雪氷学会は日本雪工学会と合同調査チームを結成し，大雪発生直後から情報収集に努め，現地入りが可能となった地点から順次現地調査を行った。さらに，科学研究費助成事業「2014 年 2 月 14-16 日の関東甲信地方を中心とした広域雪氷災害に関する調査研究」（特別研究促進費：代表者：和泉薫）にも協力した。この科研のアウトリーチ活動として，被害の大きかった山梨県，群馬県，東京都において 2014 年 6~8 月にかけて 3 回の「大雪災害シンポジウム」を開催し，その被害の実態と問題点などについて意見交換を行った。この科研報告では，日本雪氷学会員が中心となって，災害の実態だけでなく，生活関連，建築物被害，農業被害，道路交通，雪崩災害，融雪災害の各分野での今後の対策に向けた提言をまとめた。
2014-15 冬期も各地で大雪となって被害も発生している。徳島県のように普段雪の降らない地域での大雪被害も発生しており，今後は非雪国の大雪災害についても，その被害低減のため，学会としても取り組む必要性が増している。

キーワード: 雪氷災害
Keywords: snow and ice disaster